

研究員 の眼

サマージャンボ 何を狙うか？

— 攫千金か、それとも 5 万円以上の当せん金か

保険研究部 主席研究員 篠原 拓也

(03)3512-1823 tshino@nli-research.co.jp

現在、新型コロナのワクチン接種は進んでいるが、デルタ株(インド型)などの変異株の拡大もあり、コロナ禍の収束は見通せない。東京では、4 回目となる緊急事態宣言が発令され、オリンピックが無観客で開催されている。他にも、さまざまなイベントが中止や、観客数の制限などに追い込まれており、昨年が続いて“楽しめない夏休み”となっている。その分、エンターテインメントとして、宝くじへの注目度が高まっているはずだ。

7 月 13 日から発売されているサマージャンボ宝くじは、最高当せん金が 1 等前後賞合わせて 7 億円と高額だ。この 7 億円という金額は、5 つあるジャンボ宝くじのなかでも、年末ジャンボの 10 億円の次ぐもので、まさに宝くじの“夏の陣”が、盛況を迎えているといったところだろう。

今回のサマージャンボ宝くじには、昨年から変更されている部分もある。その変更点をみながら、今年は何を狙うべきか考えてみよう。

◇ ジャンボは 1 万円以上の当せん本数が 6 割以上増加

サマージャンボ宝くじには、他のジャンボ宝くじと同様、「ジャンボ」と「ジャンボミニ」の 2 つがある。「1 等前後賞合わせて 7 億円」のうたい文句で発売されているのは、サマージャンボだ。これに対して、サマージャンボミニの当せん金の最高額は、1 等前後賞合わせて 5000 万円となっている。

それでは、サマージャンボは昨年と比べて、何が変更となったか。主な変更点は 5 つあげられる。

(サマージャンボの主な変更点)

- (1) 3等（当せん金 100 万円）の当せん本数が、1 ユニット（=1000 万本）あたり 30 本から 10 本に減少
- (2) 4等（当せん金 5 万円）が新設され、当せん本数は 1 ユニットあたり 100 本とされた
- (3) 5等（当せん金 1 万円）の当せん本数が、1 ユニットあたり 6000 本から 1 万本に増加
- (4) これらの結果、1 ユニットあたりの当せん本数は 110 万 6134 本から 111 万 214 本に増加
- (5) 1 枚 300 円に対する当せん金の平均受取額は、141.99 円から 144.49 円に 2.5 円増額

この中で特に目を引くのが、(3)の5等1万円の当せん本数が増加した点だ。これにより、1万円以上の当せん金が当たるくじの本数は、1 ユニットあたり、昨年の 6134 本から、今年は 1 万 214 本へと、6割以上増加している。

ただし、1万円以上の当せん金が当たるには、平均して、くじを 980 枚（29 万 4000 円）も買う必要がある。やはり、サマージャンボは当せん金 1 万円を目指すというよりも、1 等前後賞合わせて 7 億円を狙うための宝くじと位置づけられるだろう。

◇ ミニは当せん金 5 万円以上の本数が昨年の 7 倍以上に

一方、サマージャンボミニはどうか。サマージャンボと違って、当せん金の最高額は 1 等前後賞合わせて 5000 万円にとどまるが、その分、2 等以下の当せんの期待は大きい。

じつは、サマージャンボミニは昨年のものから様変わりしている。昨年は 1 等に前後賞がなく、1 等の当せん金は 1000 万円のみだった。昨年と比べると、主な変更点は 7 つあげられる。

(サマージャンボミニの主な変更点)

- (1) 1 等の当せん金が 1000 万円から 3000 万円に引き上げられ、1 ユニットあたりの当せん本数は 10 本から 4 本に減少
- (2) 1 等の前後賞（当せん金は各 1000 万円）が新設された
- (3) 2 等（当せん金 5 万円）の当せん本数が、400 本から 3000 本に増加
- (4) 3 等（当せん金 1 万円）の当せん本数が、10 万本から 4 万本に減少
- (5) 4 等（当せん金 3000 円）が新設され、当せん本数は 1 ユニットあたり 10 万本とされた
- (6) これらの結果、1 ユニットあたりの当せん本数は 110 万 410 本から 114 万 3012 本に増加
- (7) 1 枚 300 円に対する当せん金の平均受取額は、142 円から 135 円に減少

このうち、もっとも目を引くのは、(3)の当せん金5万円の当せん本数が増加する点だ。1ユニットあたりでみると、5万円以上が当たるくじの本数は、昨年の410本から、今年は3012本へと、なんと7倍以上に増加する。

一方、(4)の当せん金1万円の当せん本数の減少は気になる点だ。1ユニットあたりでみると、1万円以上が当たるくじの本数は、昨年の10万410本から、今年は4万3012本へと、なんと4割ほどにまで減ってしまう。

当せん金1万円から5万円へ、狙い目をシフト——これが、今年のサマージャンボミニの特徴といえるだろう。

なお、当せん金の平均受取額は、142円から135円に減少するので要注意だ。サマージャンボミニは、1等前後賞合わせて5000万円を狙いつつ、当せん金5万円以上を目指す宝くじに一新されたといえるだろう。

◇ 2つのくじをどう買い揃えるか

サマージャンボは、1等前後賞合わせて7億円を狙う宝くじ。サマージャンボミニは、1等前後賞合わせて5000万円を狙いつつ、当せん金5万円以上を目指す宝くじと、色分けされている。

7億円もの一攫千金を狙うか。それとも、5万円以上の当せん確率を高めるか。2種類のワクワク感を満足させるように、2つの宝くじを買い揃えるのが今年の買い方のコツといえるかもしれない。

今回の宝くじの発売期間は8月13日までで、まだ時間はたっぷりある。サマージャンボ宝くじを買うことで、“楽しめない夏休み”を少しでも楽しんでみてはいかかだろうか。